

PET-CT健診で左心耳に異常集積を認めた 発作性心房細動の一例

福井県済生会病院 内科(循環器) 核医学*

大倉清孝、前野孝治、草山隆志、平澤元朗、竹森一司、登谷大修、
田中延善、小西章太*

福井大学医学部放射線科 土田 龍郎

69歳 男性

主訴 PET-CT健診で異常集積を指摘された

家族歴 母 心疾患

既往歴 胆石、脂質異常症、前立腺肥大、心原性脳梗塞(67歳)

内服 ピルジカイニド150mg/日、ワルファリン3.5mg/日、アトルバスタチン10mg/日

喫煙 なし

飲酒 ビール2缶, 日本酒1合/日

現病歴 平成20年7月に失語症・右片麻痺で脳梗塞を発症し以後、近医で抗凝固療法を受けていた。同時期よりアルコール飲酒を契機に心房細動の再発を認めたためピルジカイニドを内服していた。平成20年12月にPET健診で左心耳に異常集積を指摘されたため10日後に当科へ紹介となった。最近体重減少は無く、毎年の健診を受けているが胃内視鏡検査や腹部エコー検査では異常はなかった。

受診時現症

身長 175cm, 体重 68kg, BMI 22.2kg/m², 体温36.1℃

血圧 142/77mmHg, 脈拍 63/分・整, 脈圧左右差なし

貧血・黄疸なし, 甲状腺・表在リンパ節は触知せず

チアノーゼなし, 心音 I 音 II 音 減弱亢進なし, 心雑音なし

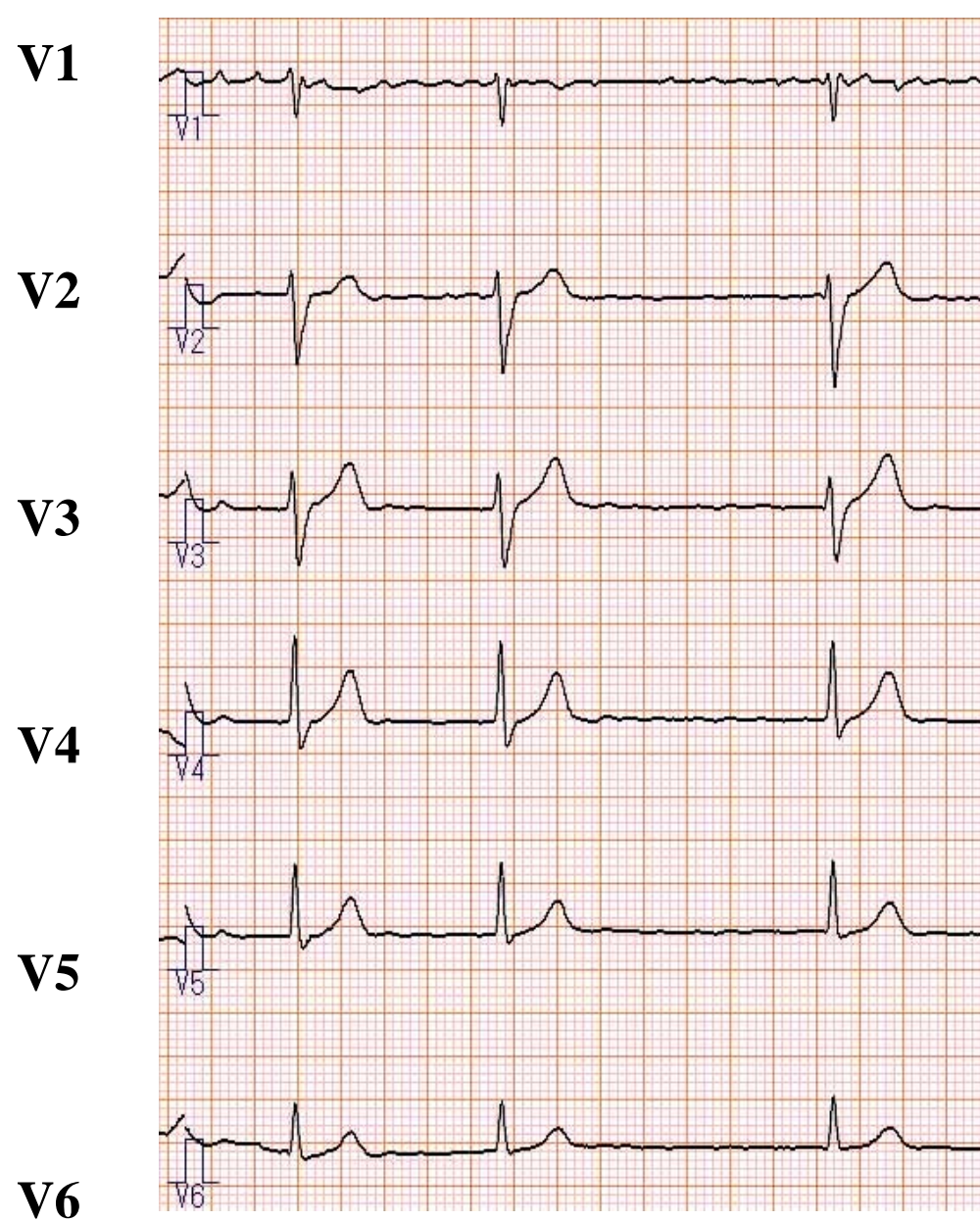
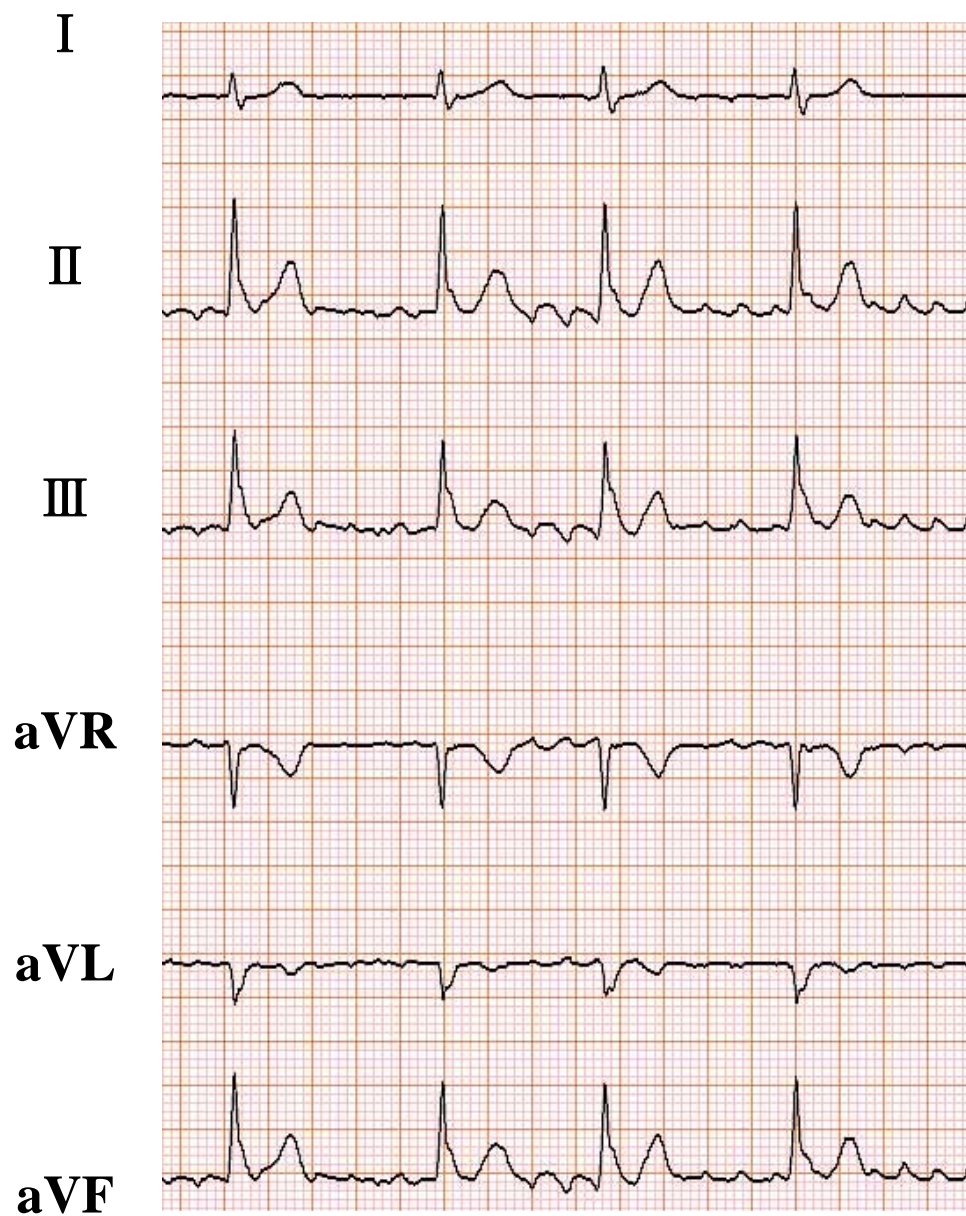
呼吸音 正常, 腹部 膨隆なし, 腹部に血管雑音聴取せず

肝脾触知せず, 下肢浮腫なし, 膝窩・足背動脈触知可

神経学的所見：異常所見なし

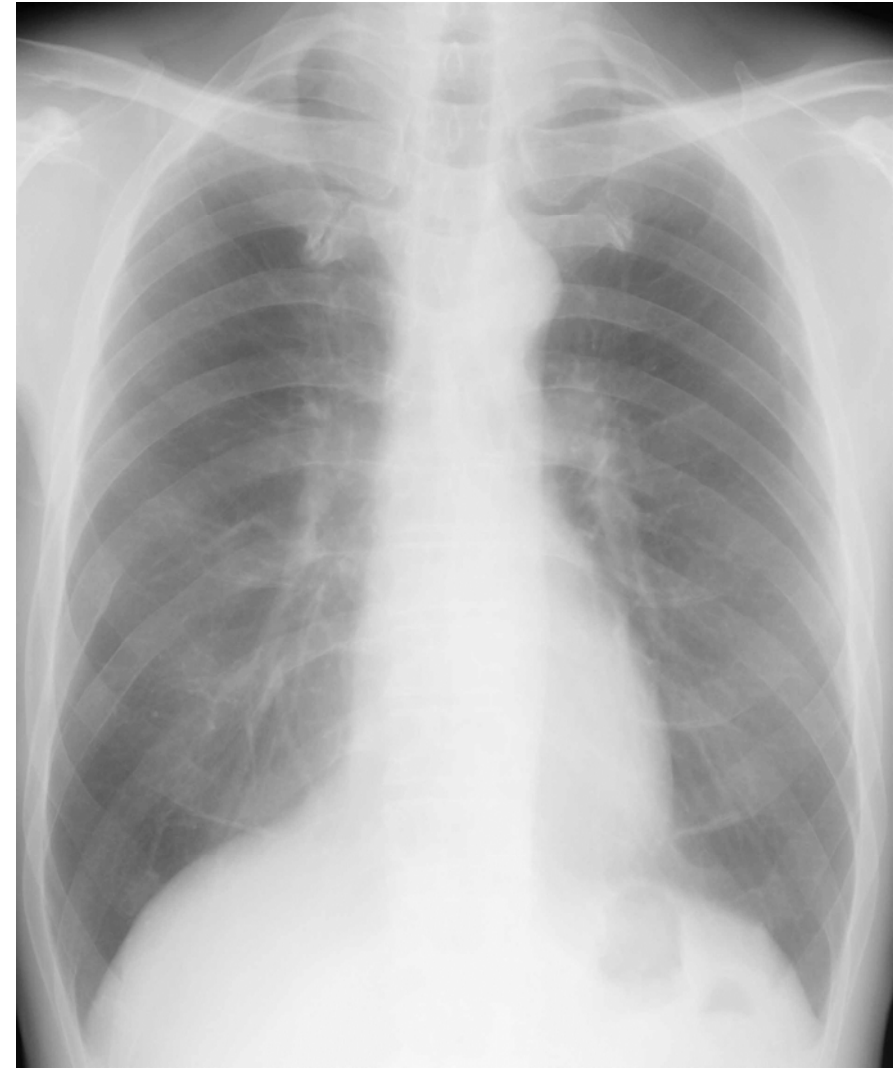
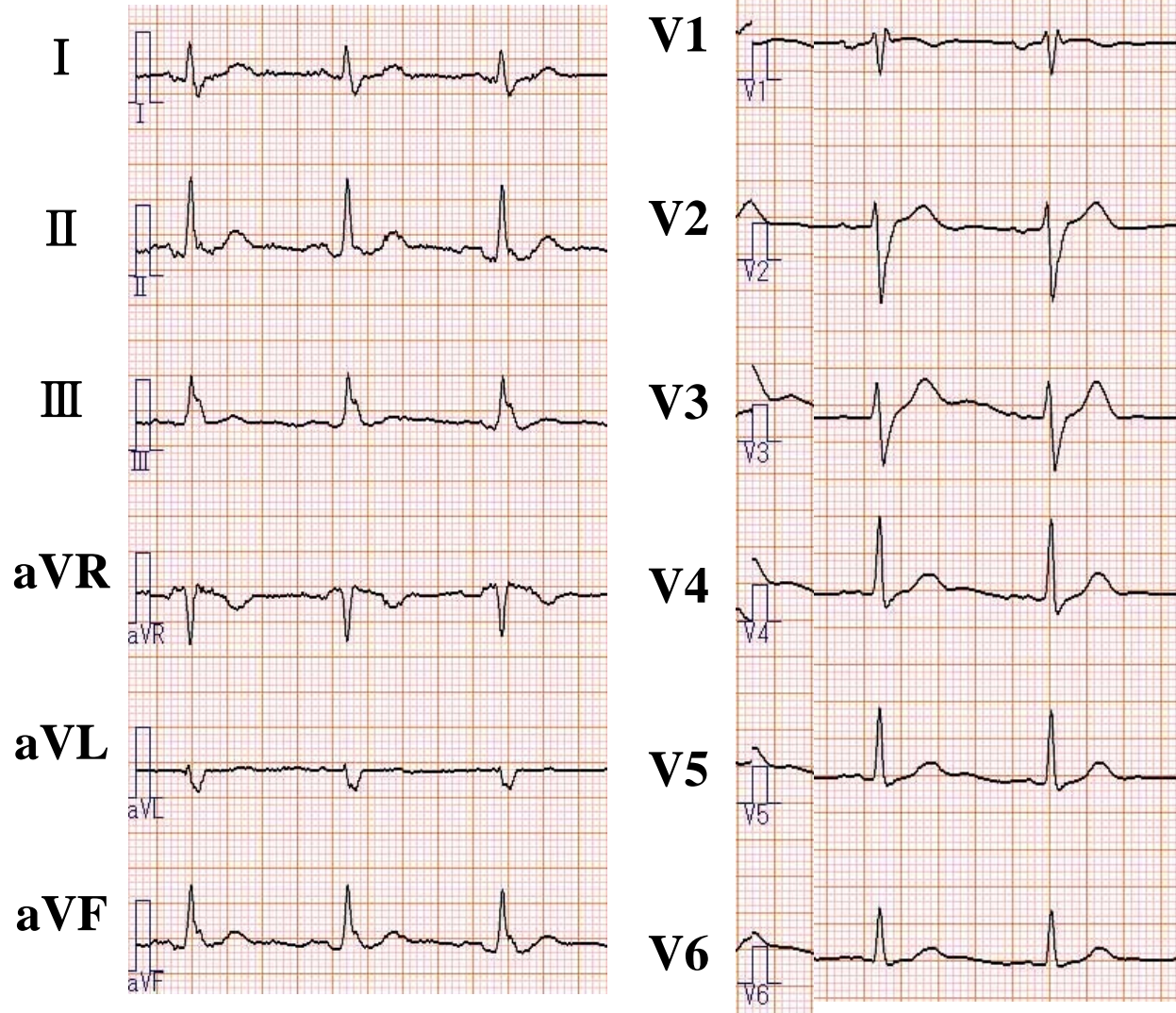
平成20年7月29日

脳梗塞発症時



受診時心電図 (平成20年12月)

胸部X線



CTR 41%

受診時検査所見

尿検査

pH	7.5
潜血	(-)
蛋白	(±)
糖	(-)
ケトン体	(-)

血液検査

WBC	5700	/ μ l
Neutro	58.6	%
Lymph	28.6	%
Mono	6.5	%
Eosino	5.5	%
Baso	0.8	%
RBC	445×10^4	/ μ l
Hb	14.5	g/dl
Ht	43.5	%
Plts	12.6×10^4	/ μ l

AST	23	IU/l
ALT	19	IU/l
LDH	184	IU/l
ALP	184	IU/l
γ -GTP	62	IU/l
T-Bil	1.1	mg/dl
CPK	193	IU/l
BUN	10.8	mg/dl
Cr	0.9	mg/dl
Na	144	mEq/l
K	4.0	mEq/l
Cl	107	mEq/l
T-chol	150	mg/dl
TG	66	mg/dl
HDL	41	mg/dl
LDL	96	mg/dl

TTT	2.4	U
ZTT	6.3	U
CRP	0.2	mg/dl
ESR 1時間	15	mm
FBS	117	mg/dl
TP	7.5	g/dl
α globulin	11.3	%
β グロブリン	9.9	%
γ グロブリン	19.4	%
Albumin	4.4	g/dl
HbA1c	5.4	%
PT活性	19.7	sec
PT-INR	2.46	(< 1.14)
APTT値	36.4	sec
HBs-Ag	(-)	
HCV-Ab	(-)	

追加検査

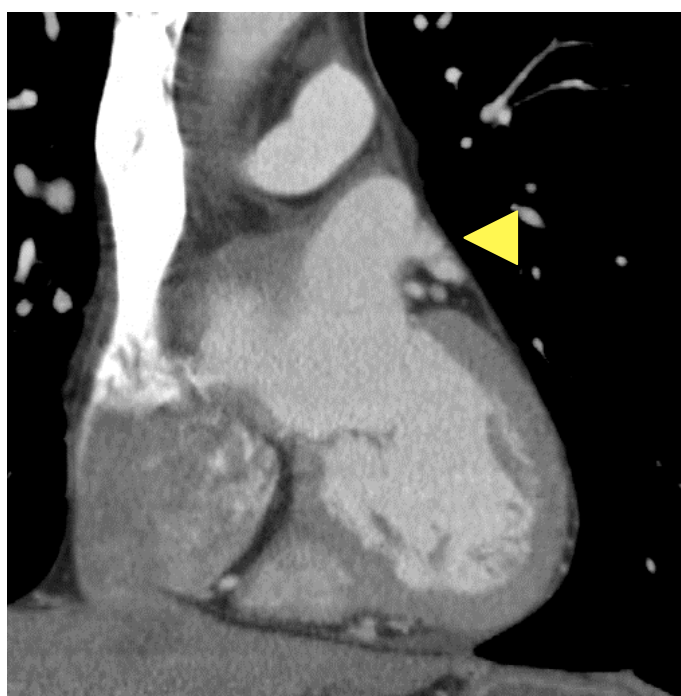
FDP	3.55 $\mu\text{g/ml}$ (< 5)	CEA	1.6 IU/ml (< 5)
D-dimer	1.9 $\mu\text{g/ml}$ (< 1)	CA19-9	3 U/ml (< 37)
fibrinogen	321 mg/dl (< 400)	CYFRA	0.9 ng/ml (< 3.5)
ATⅢ活性	86 % ($80 \sim 132$)	IL-2 receptor	297 U/ml (< 496)
アンモニア	29 $\mu\text{g/dl}$ (< 66)	Pro-GRP	48.5 pg/ml (< 46)
hANP	22.4 pg/ml (< 43)		
BNP	177.4 pg/ml (< 18)		
TSH	1.99 IU/ml (< 4.94)	便潜血2回	(-)
Free-T4	1.43 ng/dl ($0.7 \sim 1.48$)	胃内視鏡検査:	委縮性胃炎のみ
高感度CRP	1.18 g/L	腹部CT検査:	胆石、左腎嚢胞

ワーファリン増量後の胸部造影CT検査

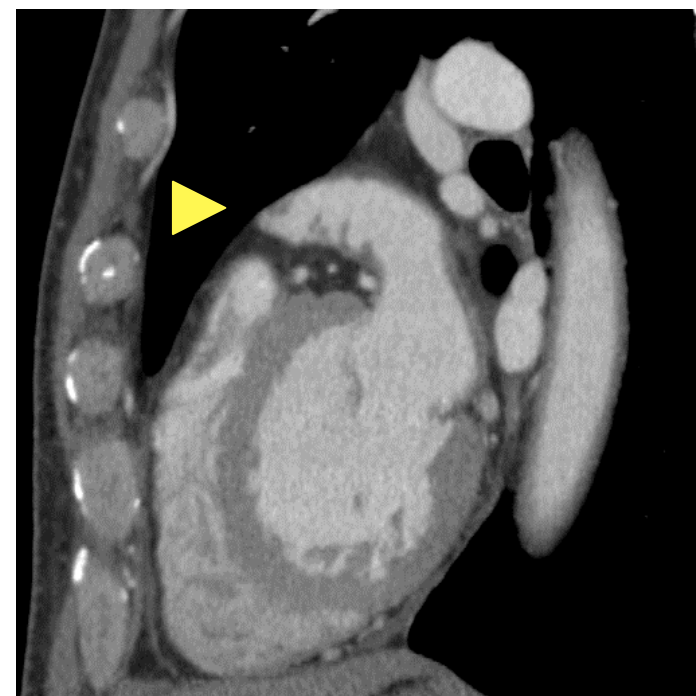
横断像



冠状断

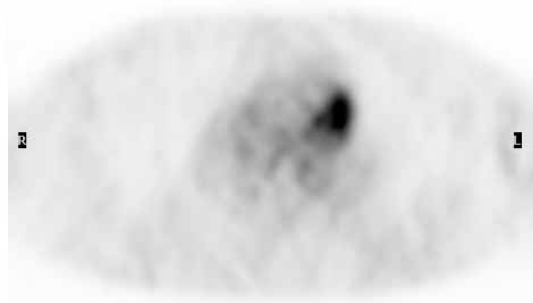


矢状断



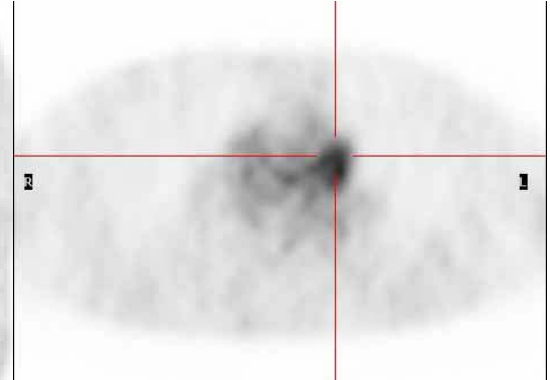
PET-CT検査

平成20年12月



SUV 3.4

平成22年2月



SUV 4.76

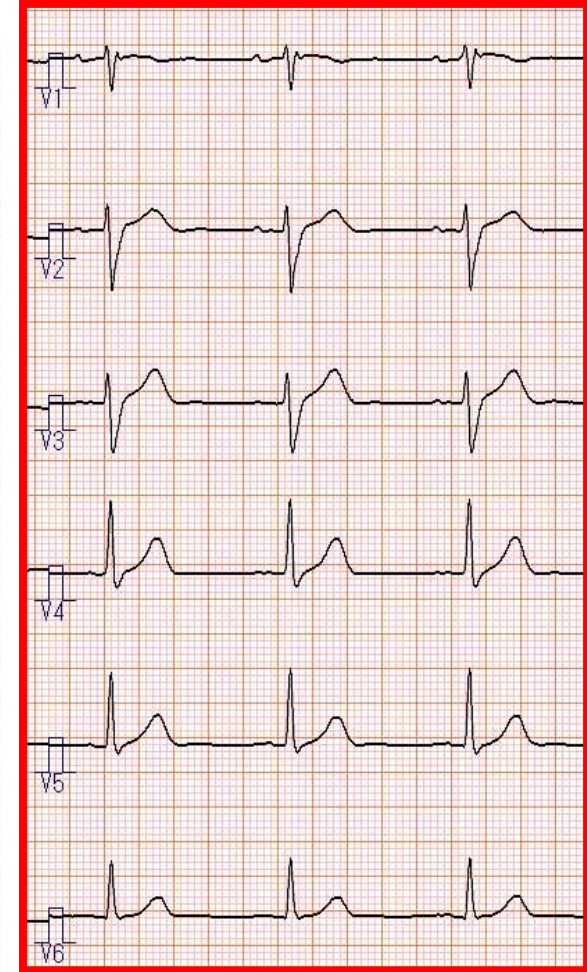
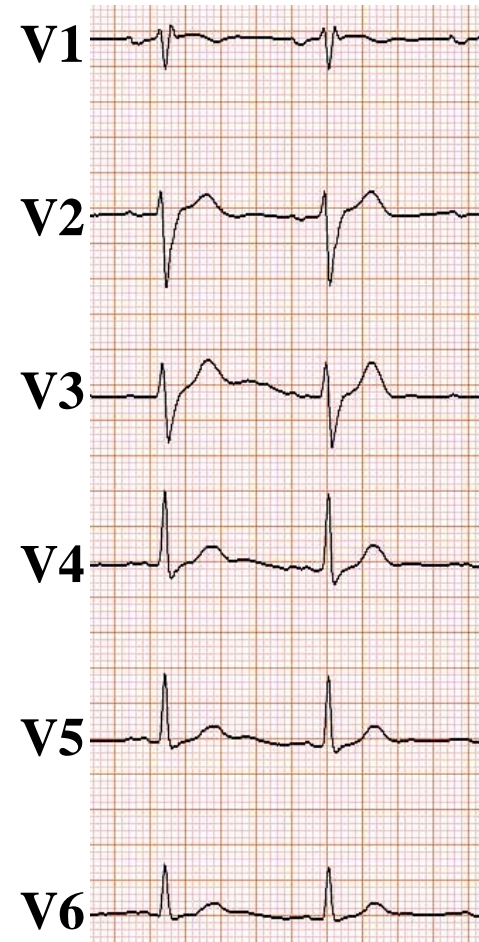
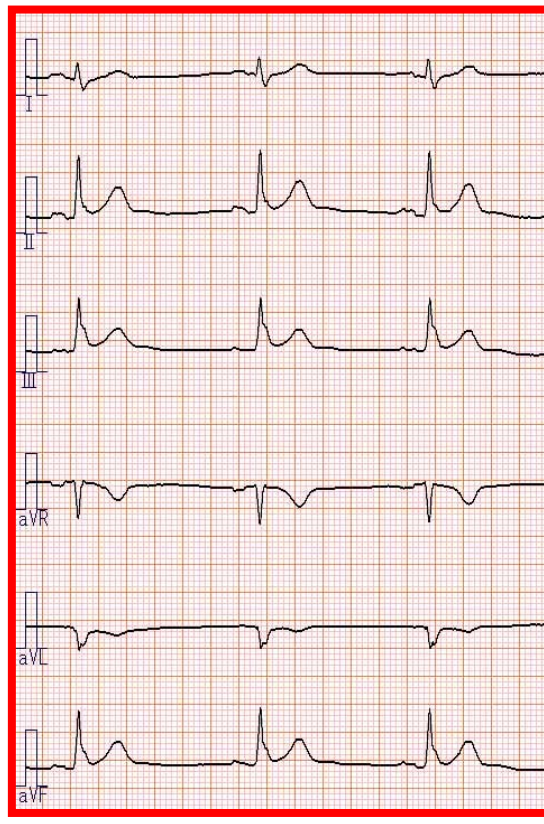
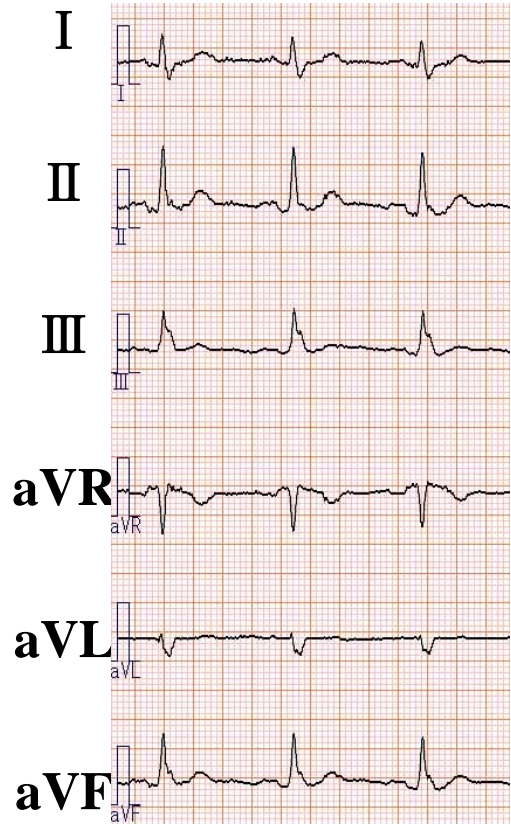
心電図の推移

受診時

平成23年1月

受診時

平成23年1月



hANP **22.4**

40.6 pg/ml (<43)

BNP **177.4**

70 pg/ml (<18)

まとめ

- **PET-CT**健診で左心耳に異常集積を認め経過を観察しえた発作性心房細動症例を経験した。
- 2回の**FDG-PET**ではいずれも左心耳以外に異常集積を認めず胸腹部CT検査や内視鏡検査でも悪性腫瘍を示唆する所見は認めなかった。
- 本例では血栓塞栓症のリスクは少なく左心耳血流は正常であり、抗凝固療法中にも関わらず左心耳内血栓が形成されており、左心耳にのみ**FDG**が集積していた。
- 心房細動症例で血栓形成のリスクが少なくても左心耳に**FDG**が集積して炎症反応の関与が示唆される場合には抗凝固療法を更に厳重に行い経過観察する必要があるかもしれない。